

損益状況

●3行単体合算

(単位:億円)

	平成23年度 中間期	平成24年度 中間期	前年比
業務粗利益	999	941	▲58
資金利益	800	776	▲24
役務取引等利益	108	96	▲12
特定取引利益	1	0	▲1
その他業務利益	89	68	▲21
経費(除く臨時処理分)▲	551	515	▲36
業務純益※1	456	481	24
コア業務純益※2	373	375	2
信用コスト※3▲	69	78	9

「コア業務純益」は、貸出金利回りの低下と市況低迷による資金利益・役務取引等利益の減少を、経費削減でカバーした結果、前中間期比+2億円増加し、375億円となりました。

「経常利益」は、資金利益および国債等債券損益が減少した一方、株式関係損益およびその他臨時損益等が増加した結果、前中間期比+16億円増加し、294億円となりました。

「中間純利益」は、上記に加え、ふくおか証券株式会社の完全子会社化に伴う負のれん発生益等(25億円)を特別損益に計上したこと、熊本ファミリー銀行において連結納税効果により法人税等が減少したことなどにより、前中間期比+57億円増加し、198億円となりました。

●FFG連結

経常利益	278	294	16
中間純利益	141	198	57

※1 業務純益=業務粗利益 - 経費(除く臨時処理分) - 一般貸倒引当金繰入額

※2 コア業務純益=業務純益 + 一般貸倒引当金繰入額 - 国債等債券損益

※3 信用コスト=一般貸倒引当金繰入額 + 不良債権処理額

主な指標

(単位:%)

	平成24年 3月末	平成24年 9月末	24年3月末比
不良債権比率 (3行単体合算)	2.96	2.92	▲0.04
自己資本比率(連結)	10.98	11.34	0.36
うちTierI比率	6.92	7.24	0.32

不良債権比率は24年3月末比0.04%低下し、2.92%となりました。

自己資本比率は、24年3月末比0.36%上昇し11.34%、TierI比率も同0.32%上昇し、7.24%となりました。

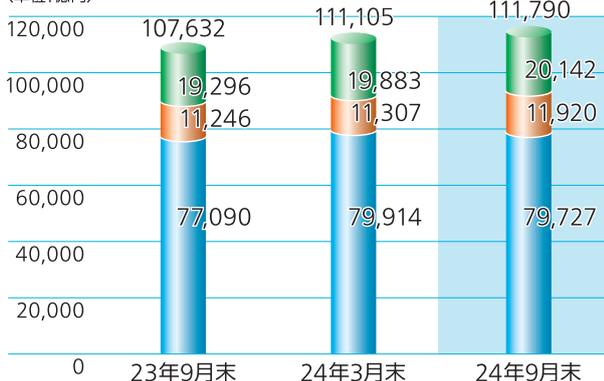
総資金(預金+NCD)の状況(3行単体合算)

総資金(預金+NCD)は、個人預金・法人預金ともに堅調に推移しました結果、前年同期末比4,158億円増加し、11兆1,790億円となりました。

※NCD・・・譲渡性預金

総資金残高(期末残高) 福岡銀行 熊本ファミリー銀行 親和銀行

(単位:億円)

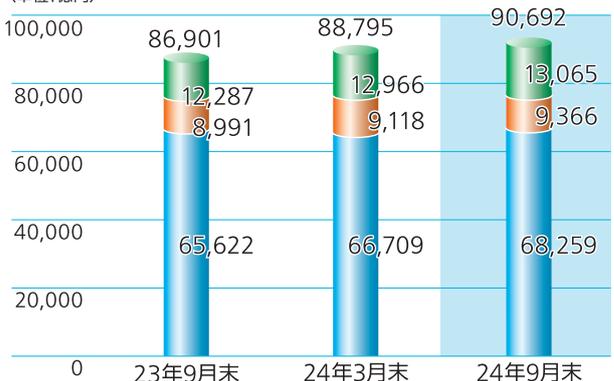


貸出金の状況(3行単体合算)

貸出金は、地元企業や個人のお客さまの資金ニーズに積極的にお応えしました結果、前年同期末比3,790億円増加し、9兆692億円となりました。

貸出金残高(期末残高) 福岡銀行 熊本ファミリー銀行 親和銀行

(単位:億円)



損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	平成23年度 中間期	平成24年度 中間期	前年比
業務粗利益	693	672	▲21
資金利益	559	540	▲19
国内部門	536	519	▲17
国際部門	23	21	▲2
役務取引等利益	79	74	▲5
特定取引利益	1	0	▲1
その他業務利益	54	57	▲4
経費(除く臨時処理分)▲	355	332	▲23
業務純益	336	386	50
コア業務純益	295	296	1
信用コスト▲	60	65	5
経常利益	250	285	35
中間純利益	145	163	18

「コア業務純益」は、資金利益の減少を経費の削減等でカバーした結果、前中間期比+1億円増加し、296億円となりました。

「経常利益」は、株式関係損益の増加等により、前中間期比+35億円増加し、285億円となりました。

「中間純利益」は、前中間期比+18億円増加し、163億円となりました。

主な指標

(単位:%)

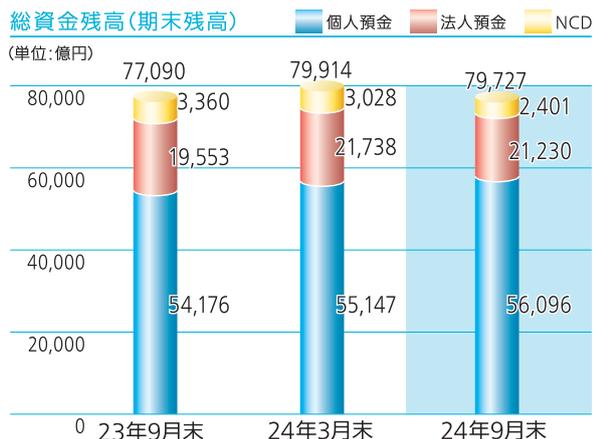
	平成24年 3月末	平成24年 9月末	24年3月末比
不良債権比率(単体)	2.87	2.77	▲0.10
自己資本比率(連結)	12.70	12.79	0.09
うちTierI比率	9.30	9.33	0.03

不良債権比率は24年3月末比0.10%低下し、2.77%となりました。

自己資本比率(国内基準)は、24年3月末比0.09%上昇し12.79%、TierI比率も同0.03%上昇し、9.33%となりました。

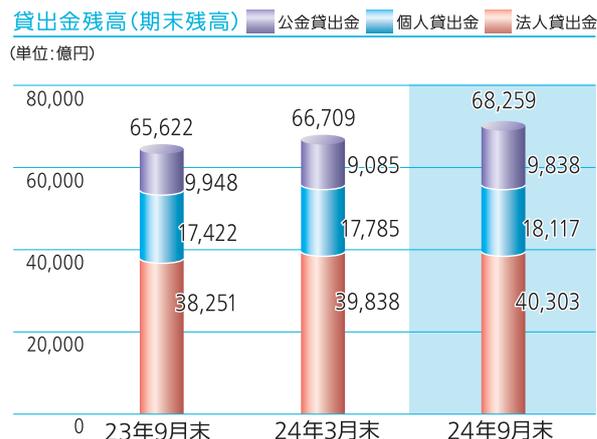
総資金(預金+NCD)の状況

個人預金・法人預金ともに堅調に推移しました結果、前年同期末比2,637億円増加し、7兆9,727億円となりました。



貸出金の状況

地元中小企業を中心とした新規取引の開拓など積極的な需要の取込みや住宅ローンを中心とした個人部門(個人貸出金)の推進を行った結果、総貸出金は前年同期末比2,637億円増加し、6兆8,259億円となりました。



損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	平成23年度 中間期	平成24年度 中間期	前年比
業務粗利益	113	111	▲2
資金利益	101	97	▲4
国内部門	100	96	▲4
国際部門	1	0	▲0
役務取引等利益	11	6	▲5
特定取引利益	—	—	—
その他業務利益	1	8	7
経費(除く臨時処理分)▲	80	76	▲4
業務純益	35	37	2
コア業務純益	33	28	▲5
信用コスト▲	7	7	▲0
経常利益	16	21	6
中間純利益	8	39	31

「コア業務純益」は、資金利益及び役務取引利益の減少等により、前中間期比▲5億円減少し、28億円となりました。

「経常利益」は、国債等債券損益の増加等により、前中間期比+6億円増加し、21億円となりました。

「中間純利益」は、上記に加え、連結納税効果により法人税等が減少した結果、前中間期比+31億円増加し、39億円となりました。

主な指標

(単位:%)

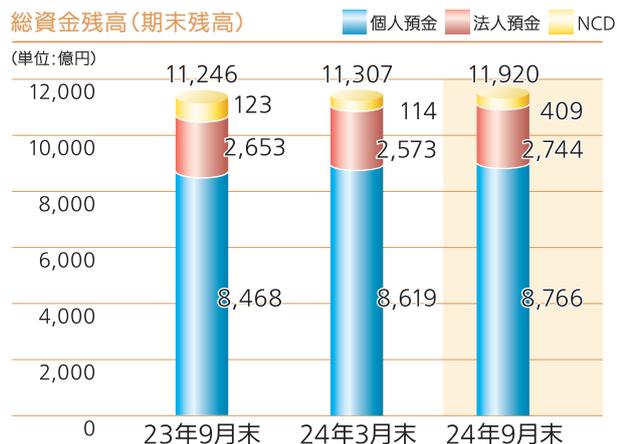
	平成24年 3月末	平成24年 9月末	24年3月末比
不良債権比率(単体)	3.01	3.17	0.16
自己資本比率(単体)	10.84	11.33	0.49
うちTierI比率	10.07	10.56	0.49

不良債権比率は24年3月末比0.16%上昇し、3.17%となりました。

自己資本比率(国内基準)は、24年3月末比0.49%上昇し11.33%、TierI比率も同0.49%上昇し、10.56%となりました。

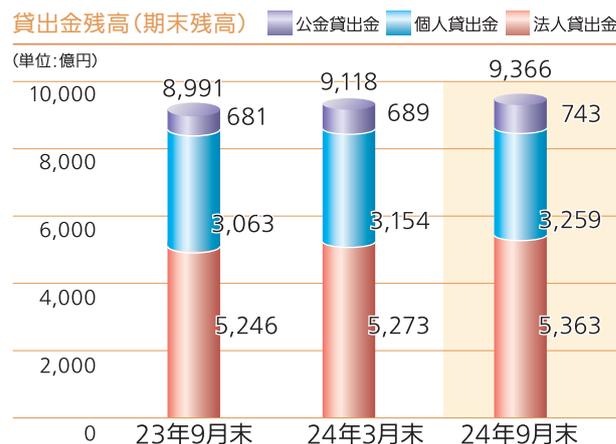
総資金(預金+NCD)の状況

個人預金・法人預金ともに堅調に推移しました結果、前年同期末比674億円増加し、1兆1,920億円となりました。



貸出金の状況

地元中小企業を中心とした新規取引の開拓など積極的な需要の取込みや住宅ローンを中心とした個人部門(個人貸出金)の推進を行った結果、総貸出金は前年同期末比375億円増加し、9,366億円となりました。



損益状況(単体ベース)

(単位:億円)

	平成23年度 中間期	平成24年度 中間期	前年比
業務粗利益	193	158	▲35
資金利益	140	139	▲1
国内部門	139	139	0
国際部門	1	0	▲1
役務取引等利益	19	17	▲2
特定取引利益	—	—	—
その他業務利益	34	2	▲32
経費(除く臨時処理分)▲	116	107	▲9
業務純益	85	57	▲28
コア業務純益	44	50	6
信用コスト▲	2	7	5
経常利益	47	38	▲9
中間純利益	46	32	▲14

「コア業務純益」は、役務取引等利益の減少を経費の削減等によりカバーした結果、前中間期比+6億円増加し、50億円となりました。

「経常利益」は、その他臨時損益等が増加^{*}した一方、国債等債券損益が減少したことから、前中間期比▲9億円減少し、38億円となりました。

「中間純利益」は、前中間期比▲14億円減少し、32億円となりました。

^{*}前中間期に住宅ローン証券化による譲渡益の一括償却を実施。

主な指標

(単位:%)

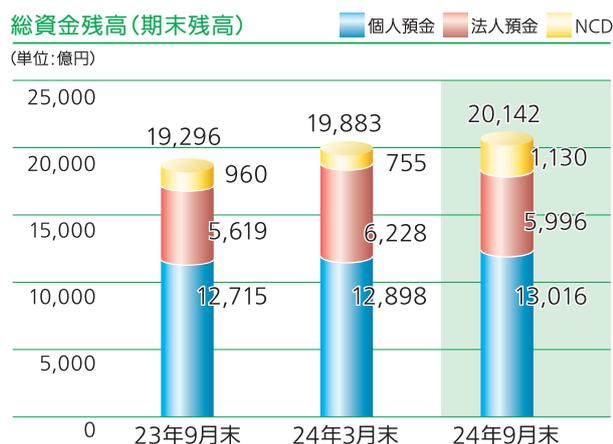
	平成24年 3月末	平成24年 9月末	24年3月末比
不良債権比率(単体)	3.35	3.49	0.14
自己資本比率(連結)	12.84	13.08	0.24
うちTier I比率	10.57	10.83	0.26

不良債権比率は24年3月末比0.14%上昇し、3.49%となりました。

自己資本比率(国内基準)は、24年3月末比0.24%上昇し13.08%、Tier I比率も同0.26%上昇し、10.83%となりました。

総資金(預金+NCD)の状況

個人預金・法人預金ともに堅調に推移しました結果、前年同期末比846億円増加し、2兆142億円となりました。



貸出金の状況

地元中小企業を中心とした新規取引の開拓など積極的な需要の取込みや住宅ローンを中心とした個人部門(個人貸出金)の推進を図った結果、総貸出金は前年同期末比778億円増加し、1兆3,065億円となりました。

